



肝細胞がん 2022年9月版

# Oncologist Fact Report

肝細胞がん診療医の情報収集レポート

2022年新薬の認知・処方実態や処方に至るまでのカスタマージャーニー  
ダイジェスト版

---

株式会社メディカルトリビューン

Hepatocellular carcinoma'22

# 目次

## 1 本サービスご提供の背景・肝細胞がんに関するレポートに取り組む背景

## 2 調査概要

- 回答者属性

## 3 エグゼクティブサマリー

## 4 調査結果詳細

- 第一部：肝細胞がんの治療実態

- 4-1：治療薬／レジメンの使用状況
- 4-2：開発品の認知状況
- 4-3：治療方針／チーム医療

- 第二部：肝細胞がんを診察する医師の情報収集実態

- 4-4：日常診療
- 4-5：MR／MSL
- 4-6：学会
- 4-7：カスタマージャーニー
- 4-8：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察

- 第三部：肝細胞がん患者の治療実態

- 4-9：まとめ・回答者属性
- 4-10：治療・通院の状況
- 4-11：治療に関する情報収集・アプリ

## 調査概要

	医師	患者
調査対象者条件	1. 消化器内科、消化器外科、腫瘍内科 2. 直近1年間に肝細胞がんの患者を1人以上診療	1. 肝細胞がんの治療経験がある 2. 20歳代以上の男女
標本抽出	Medical Tribune ウェブ 医師会員	一般消費者パネルからのランダム抽出
調査手法	WEBアンケート調査	WEBアンケート調査
サンプル数	237ss	100ss
調査時期	2022年7月5日～15日	2022年7月1日～7日

## 調査対象薬剤

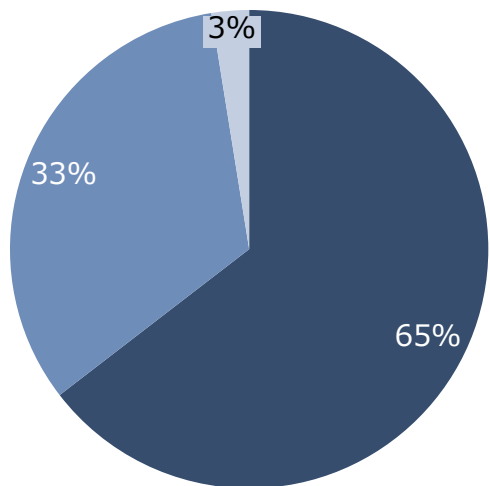
治療薬/レジメン	試験名	適応取得/発売年月
アテゾリズマブ+ベバシズマブ	Imbrave150試験	2020年9月
ソラフェニブ	SHARP試験	2009年5月
レンバチニブ	REFLECT試験	2018年3月
レゴラフェニブ	RESORCE試験	2017年6月
ラムシルマブ	REACH-2試験	2019年8月
カボサンチニブ	CELESTIAL試験・Cabozantinib-2003試験	2020年11月

### 全体

- ✓ 診療科は消化器内科が65%、消化器外科が33%、腫瘍内科は3%だった
- ✓ 勤務施設は、がんゲノム医療関連病院が58%であった
- ✓ 病床数は500床以上が43%と大規模病院が4割程度を占めた

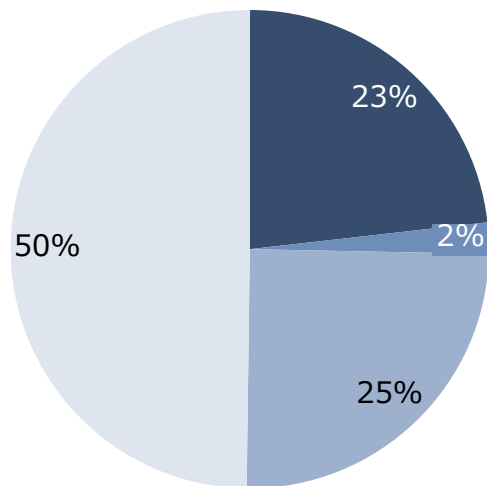
(n=237)

#### 診療科

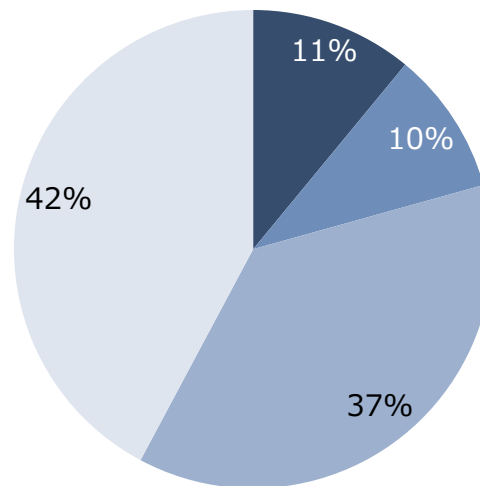


消化器内科 腫瘍内科  
消化器外科

#### 勤務施設

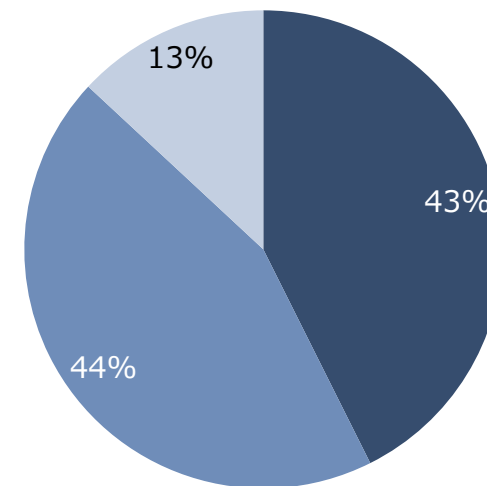


大学病院 国・公立病院  
がん専門病院 一般病院



がんゲノム医療中核拠点病院 } 58%  
がんゲノム医療拠点病院  
がんゲノム医療連携病院  
その他

#### 病床数



500床以上  
200床以上500床未満  
200床未満

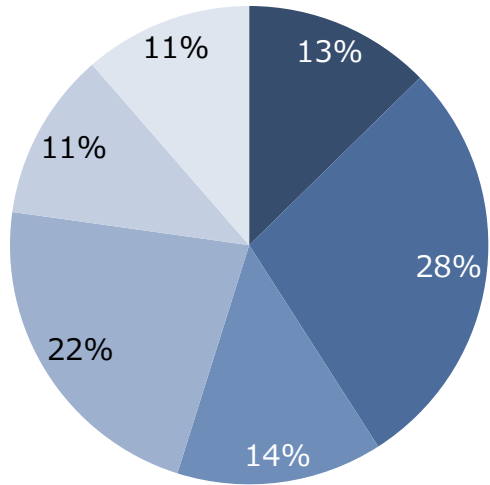
※SQ1.先生の主な診療科を教えてください。/SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/F3.先生の主な勤務先について、がんゲノム医療における施設区分を教えてください。/SQ3.先生の主たる勤務施設の病床数を教えてください

### 全体

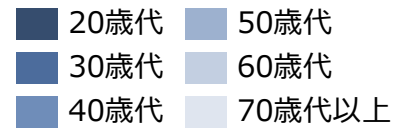
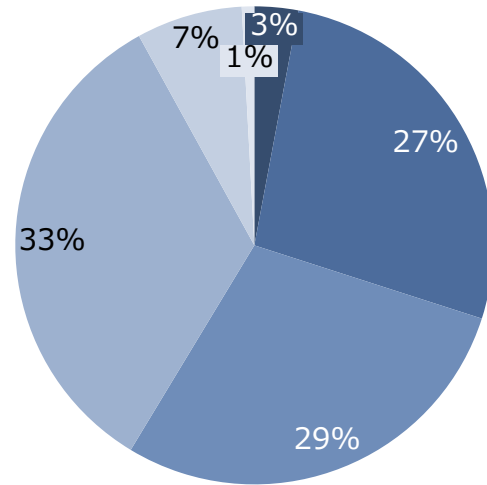
- ✓ 勤務施設のエリアは関東、近畿の順に多く、一般的な調査での分布と違いはなかった
- ✓ 年齢層は30～50歳代が中心であった
- ✓ いずれかの役職に就いている割合は58%と、半数以上を占めた

(n=237)

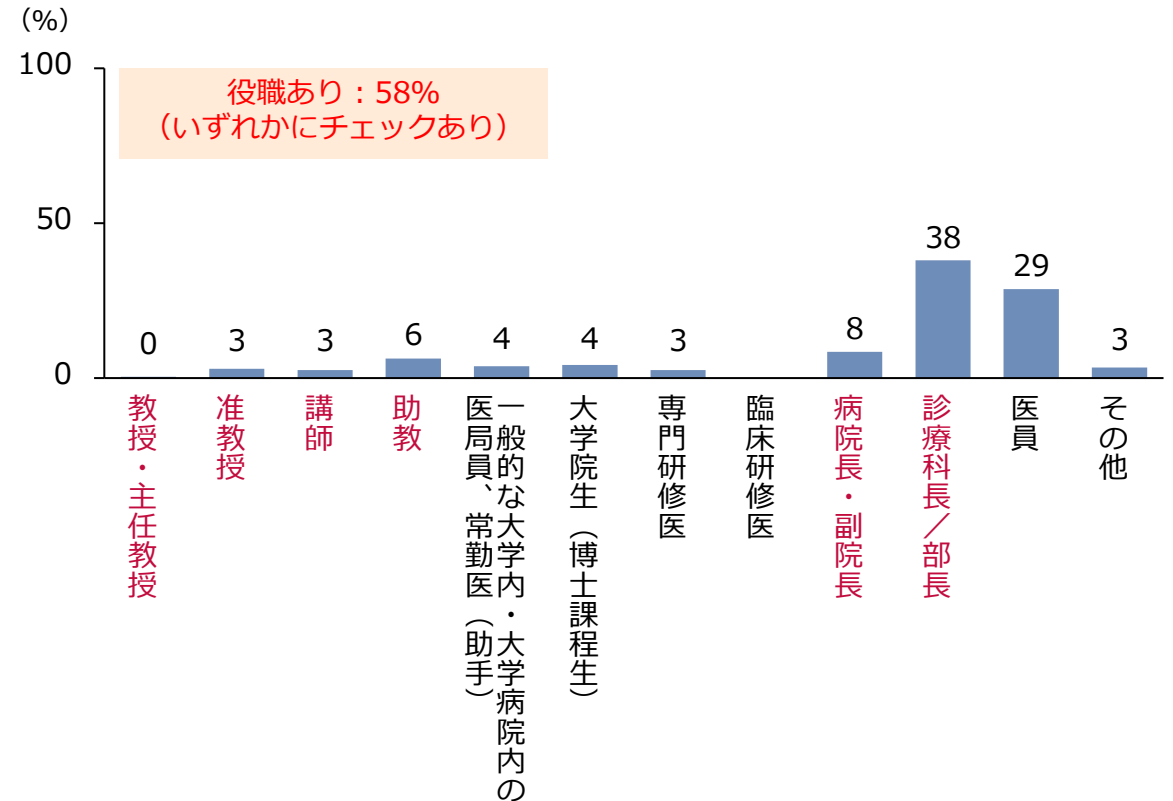
#### 勤務施設のエリア



#### 年齢層



#### 役職



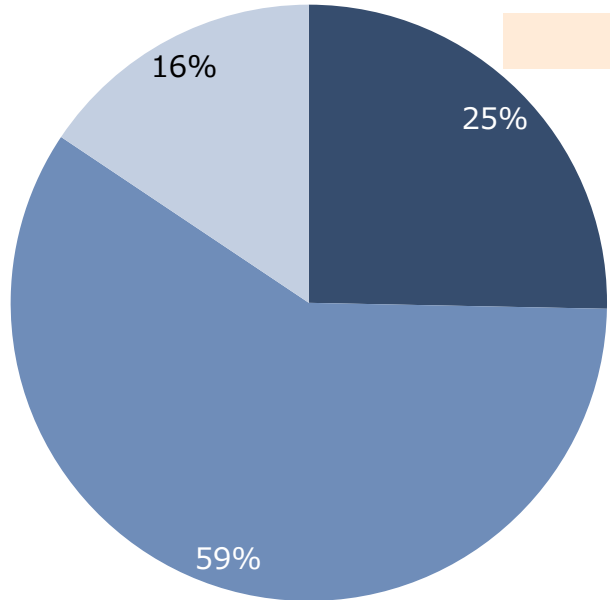
F1.先生の主たる勤務施設の所在地を教えてください。/F2.先生のご年齢(世代)を教えてください。/F4.先生の主たる勤務施設での役職を教えてください。(MA)

### 全体

- ✓ 薬剤の採用に関与している割合は84%であった
- ✓ 直近3年間で治験に関わった割合は29%であった

(n=237)

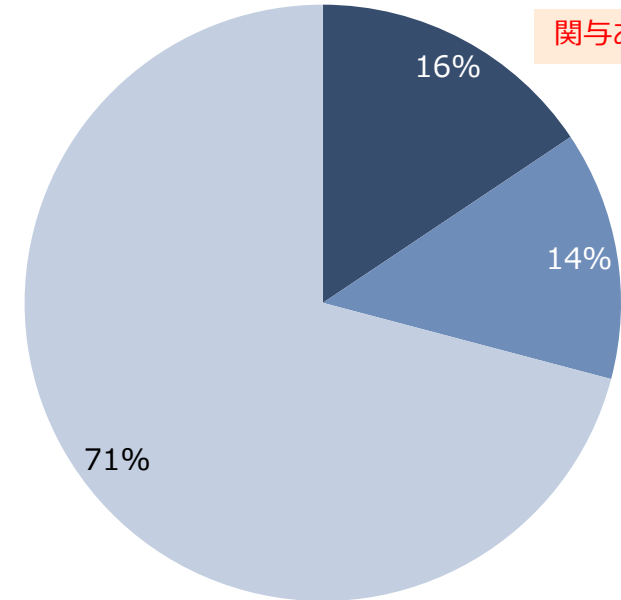
#### 採用薬への関与



関与あり : 84%

- 採用薬の決定権がある
- 決定権はないが、意見を出している
- 特に関与していない

#### 治験への関与



関与あり（過去含め） : 29%

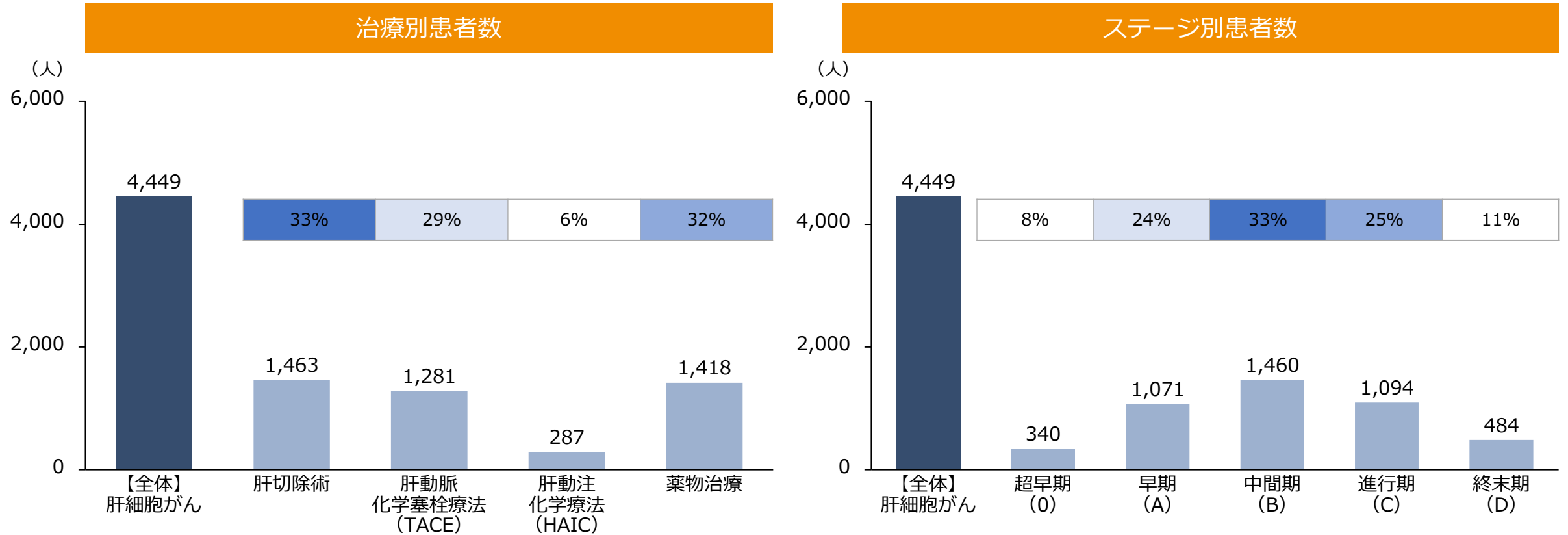
- 現在、関わっている
- 現在は関わっていないが、直近3年間では関わっていた
- 直近3年間では関わっていない

F5.先生の主な勤務施設における採用薬への関与について、当てはまる内容を選択してください。/F6.直近3年間における、肝細胞がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。

### 全体

- ✓ 担当する肝細胞がん患者に対し、薬物治療を行っている割合は32%であった
- ✓ ステージ別ではBCLC分類のステージ BおよびCが58%を占めた

(n=237)



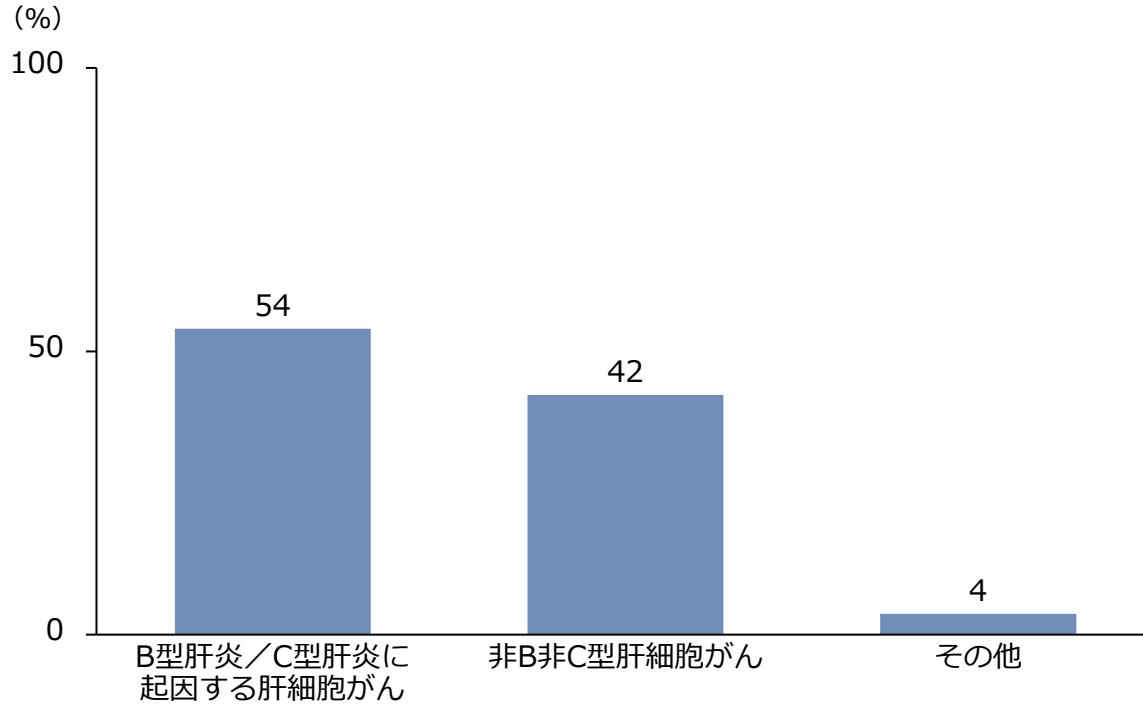
SQ4.【直近1年間の診療において】先生ご自身が診療した、肝細胞がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。

SQ5.肝細胞がんの各治療について直近1年間の実施人数を教えてください。/Q1.直近1年間において、先生が診療した肝細胞がん患者のステージ別の人数を教えてください。

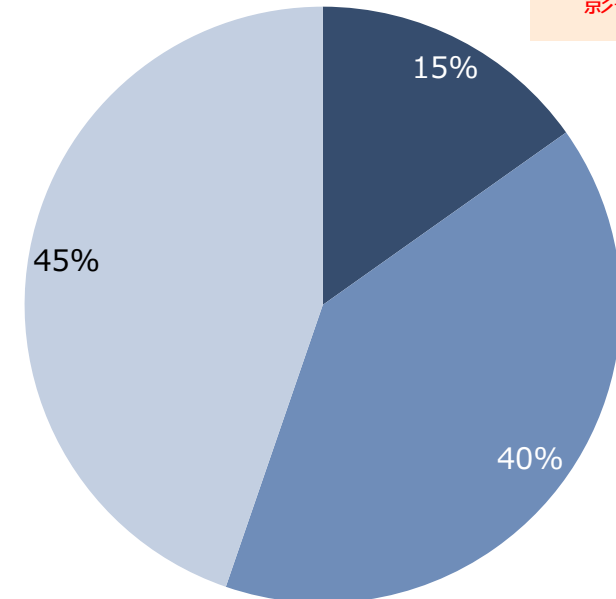
### 全体

- ✓ 直近1年間の新規発症の肝細胞がんは非B非C型が42%を占めた
- ✓ 肝細胞がんの原因の違いが、薬剤選択に影響するとの回答は55%であった

新規発症例の割合（平均値）



B型/C型肝炎起因と非B非C型肝細胞がんの違いによる薬剤選択への影響

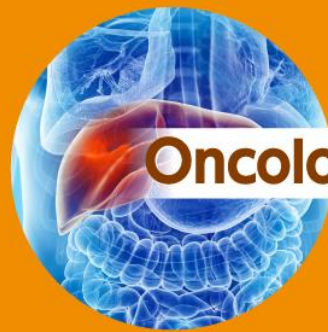


影響あり：55%

- 薬剤選択に大きな影響がある
- 薬剤選択に多少影響がある
- 薬剤選択に影響はない

Q1-1.直近1年間に診療した肝細胞がん新規発症例における以下の割合を教えてください。Q1-2.B型肝炎/C型肝炎に起因する肝細胞がんと非B非C型肝細胞がんの違いが薬剤選択に及ぼす影響について、最も当てはまるものを選択してください。





# Oncologist Fact Report

2022年9月版



**CONFIDENTIAL**

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。